

| | | | |
|-----|--------|-----|-----|
| 科目名 | ビジネス基礎 | 教科名 | 商業 |
| 学年 | 1学年 | 単位数 | 2単位 |

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】</p> <p>(2)ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】</p> |
| 使用教科書 | 『ビジネス基礎』 実教出版株式会社 |

| a. 知識・技術 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |

| 月 | 学習項目 | 学習内容 | a | b | c | 評価方法 |
|---|--|---|---|---|---|--|
| 4 | 第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス | <ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの役割などについて理解している。 ・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連について見いだしている。 ・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・小テスト |
| 5 | 第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 ・情報を入手して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 6 | 第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |

| | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 第4章 さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 9 | 3. 卸売業 4. 物流業 5. 金融業 6. 情報通信業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・小テスト |
| 10 | 第5章 企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 11 | 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 12 | 第6章 ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済 | <ul style="list-style-type: none"> ・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 1 | 第7章 ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス計算について実務に即して理解している。また、関連する技術を身に付けている。 ・ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 2 3 | 第8章 身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域のビジネスの動向 実習 身近な地域の見どころ再発見 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地域のビジネスについて理解している。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。 ・身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 ・発表内容 |

「ビジネス基礎」シラバス

| | | | |
|-----|------|-----|--------|
| 教科名 | 商業科 | 科目名 | ビジネス基礎 |
| 学年 | 3 学年 | 単位数 | 2 単位 |

1. 科目 「 ビジネス基礎 」

| | |
|---------|--|
| 学習の達成目標 | ・ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。 |
| 使用教科書 | 実教出版 「 ビジネス基礎 新訂版 」 |

2. 科目全体の評価の観点と趣旨

| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|--|---|---|--|
| ビジネスについて関心を持ち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員として望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。 | ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 | ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 | ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員としての望ましい心構えを理解している。 |
| 具体例 ・出席状況・提出物 ・平常の学習活動 ・学習態度 等 | ・新聞記事等から最新の情報を収集し、適切に思考・判断し、表現できる。 | ・実技テスト ・ビジネスの諸活動で用いられる適切な技能を身に付けている。 | ペーパーテスト、 発表内容、 レポート内容 |

3. 観点別学習状況の評価の数量化

| 評価 | 内 容 | 判定基準 | 得 点 |
|----|-------------------|---------|-----|
| A | 十分に理解できると判断されるもの | 80%以上 | 3 |
| B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%～79% | 2 |
| C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 | 1 |

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

| 評価内容 | 100点法 | 5段階評価 |
|-------------------------------|--------|-------|
| 十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの | 80～100 | 5 |
| 十分満足できると判断されるもの | 65～79 | 4 |
| おおむね満足できると判断されるもの | 50～64 | 3 |
| 努力を要すると判断されるもの | 35～49 | 2 |
| 努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの | 0～34 | 1 |

| 月 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価規準（評価方法） |
|--------|--|---|--|
| 4 | 第1章 商業の学習ガイダンス 1. 21世紀にはばたく 2. しっかり楽しく学んでいこう | 商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深めます。 商業の学習分野と職業について関心を持ち、卒業後の進路を意識して学習することの意義について理解を深めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ目的と学び方について関心を持ち、専門性の基礎・基本の学習の重要性を理解しているか。（観察法） ・商業の学習と進路の関連について考察し、自らの進路について考える意義について理解しているか。（観察法） |
| 5 | 第2章 経済と流通の基礎 1. 経済のしくみとビジネス 2. 社会の変化とビジネスの発展 | 経済の仕組みに関する基礎的・基本的な知識を身に付けます。 経済主体の役割や経済を支えるビジネスについて具体的に学び、その重要性について理解を深めます。 我が国における経済の歴史について学ぶとともに現代のビジネスに関する現状について理解を深めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済のしくみや経済主体について主体的に考察しているか。（プリント） ・我が国と国際社会のビジネスの発展について理解するとともにビジネスの諸課題について探求しようとしているか。（観察法） |
| 6 7 | 3. 経済活動と流通 | 流通に関する仕組みを理解し、現代市場における情報技術を活用した流通やマーケティングの意義について学びます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動における流通の意義や役割を理解し、情報技術の発達に伴う流通の発達について考察し、自らの経験と結び付けて探求しようとしているか。（観察法） ・ビジネスマナーに対する意義や必要性について理解し、望ましい心構えや態度を身に付けているか。（観察法） |
| 9 | 第7章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー | ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや態度を身に付けます。 ロールプレイングでの実習を通して実践的なビジネスマナーを身に付けます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける適切なみだしなみや挨拶、言葉遣いなどをロールプレイングを通して身に付けることができているか。（ロールプレイング） |
| 10 | 第3章 ビジネスの担い手 1. ものの生産者 2. サービスの生産者 3. 小売業 4. 卸売業 5. 物流業 6. 金融業 7. 情報通信業者 | 現代の経済においてビジネスの担い手が担う役割や仕事の概要について理解を深めます。 経済の発展に伴う、ビジネスの変化について考察します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの担い手の役割や仕事の概要及び各ビジネスの動向について基礎的・基本的な知識を身に付けているか。（プリント） ・経済の発展に伴い、今後のビジネスがどのように変化していくか主体的に考察し、導き出した答えを適切に表現することができるか。（観察法） |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 11 | <p>第4章 企業活動の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスと企業 2. 資金調達 3. 企業活動と税 4. 雇用 5. 企業倫理 | <p>企業の目的について学び、企業形態や経営組織の種類、特徴について理解を深めます。</p> <p>資金調達の方法や企業が納める税の種類、雇用形態の特徴、企業に求められる倫理に関する基礎的、基本的な知識を身に付けます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・企業形態と経営組織の種類と特徴について基礎的・基本的な知識を身に付け、理解しているか。(プリント) ・資金調達の方法について関心を持ち、その特徴について主体的に考察しているか。(観察法) ・企業活動にかかる税の種類やしぐみについて関心を持ち、理解しているか。(観察法) ・我が国における雇用形態の特徴と多様化及びその課題について、理解しているか。 ・企業の責任について理解し、課題を発見し探求しようとしているか。(観察法) |
| 12 | <p>第5章 ビジネスと売買取引</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 売買取引の手順 2. 代金決済 | <p>売買取引の手順について学び、売買契約の意義や実践的な態度を身に付けます。</p> <p>代金決済の手段と特徴について理解を深め、適切な代金決済を行うための判断力を身に付けます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・売買取引とビジネス計算に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、売買契約の意義、条件及び締結と履行について理解しているか。(プリント) ・代金決済の手段と仕組みについて基礎的・基本的な知識を身に付け、考察することができるか。(観察法) |
| 1 | <p>第6章 売買に関する計算</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 売買に関する計算の基礎 2. 売買に関する計算の応用 | <p>売買に関する基礎的・基本的な計算及び応用的な計算について考察し、計算の考え方について理解を深めます。また、度量衡や紙幣の換算、利息の計算を通して、国際的なビジネス観を身に付けます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・売買取引とビジネス計算について関心を持ち、流通活動におけるビジネス計算の意義について理解し、正確な計算ができているか。(プリント) |
| 2 | <p>第7章 ビジネスとコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 情報の入手と活用 | <p>ビジネスにおける情報の入手方法と活用方法について実際に体験しながら身に付けます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動に必要な情報の入手と活用について、基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の真偽を見極めることの重要性を理解しているか。(観察法) |

| | | | |
|-----|-----------|-----|-----|
| 科目名 | マーケティング | 教科名 | 商業 |
| 学年 | 2学年(選択科目) | 単位数 | 2単位 |

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 使用教科書 | 『マーケティング』実教出版株式会社 |

| a. 知識・技術 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に取り組む態度 |
|--|---|---|
| 企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。 | マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |

| 月 | 学習項目 | 学習内容 | a | b | c | 評価方法 |
|---|--|---|---|---|---|--|
| 4 | 第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングを学ぶ意義を理解している。 ・現代市場におけるマーケティングの概要について理解している。 ・マーケティングの意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。 ・現代市場におけるマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・小テスト |
| 5 | 第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因 | <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について理解している。 ・購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。 ・消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 6 | 第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析することができる。 ・市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |

| | | | | | | |
|--------|---|---|---|--|---|---|
| 7 | 第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング | <ul style="list-style-type: none"> ・STP 分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・STP 分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 ・STP 分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 9 | 第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・小テスト |
| 10 | 第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 11 | 第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャネル政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 |
| 12 | 第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類 3. プロモーション政策の動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。 ・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。 ・プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 1 | 第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング | <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。 ・マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 ・マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 |
| 2 3 | 実習 もしあなたが市場調査をすることになったら もしあなたが STP を決めることになったら | <ul style="list-style-type: none"> ・市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析することができる。 ・STP 分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 | | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・行動観察 ・提出課題 ・定期考査 ・発表内容 |

| | | | |
|-----|------|-----|-----|
| 科目名 | 原価計算 | 教科名 | 商業 |
| 学年 | 3学年 | 単位数 | 2単位 |

1 科目「原価計算」について

| | |
|----------------|---|
| 学習の到達目標 | 製造業における原価計算および会計処理に関する知識と技術を修得させ、原価の概念について理解させるとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。 |
| 使用教科書 使用副教材 | 『原価計算』(7実教)実教出版株式会社 『全経簿記能力検定試験公式テキスト&問題集 2級原価計算』ネットスクール出版株式会社 |

2 科目全体の評価の観点の趣旨

| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|--|--|---|--|
| 製造業における原価計算と工業簿記について興味・関心をもち、その知識と技術の習得と理解を深めることに意欲的に取り組んでいるか。 | 個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算のそれぞれの特徴と適用される生産形態について自ら思考を深め知識や技術を活用して適切な判断をおこなない、創意工夫をおこなうとともに、その成果を的確に表現できているかどうか。 | 原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、製造業における諸活動を計数的に把握し、的確に処理できているかどうか。 | 原価計算の基本的なしくみと工業簿記の基礎的・基本的な知識を理解しているかどうか。 |
| 具体例 問題演習を通して理解を深めようとしているかどうか、など | 具体例 特徴や違いなどについて理由を主体的に考え、その結果を適切な言語活動によって表現できるかどうか、など | 具体例 適切な仕訳処理や各種帳簿の記帳ができるかどうか、など | 具体例 練習問題について一定の解答を導き出すことができ正誤の理由について把握できているかどうか、など |

3 観点別学習状況の評価の数量化

| 評価 | 内容 | 判定基準 | 得点 |
|----|-------------------|---------|----|
| A | 十分に理解できると判断されるもの | 80%以上 | 3 |
| B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%～79% | 2 |
| C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 | 1 |

4 各学期及び学年の評価方法

| 評価内容 | 100点法 | 5段階評価 |
|-------------------------------|--------|-------|
| 十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの | 80～100 | 5 |
| 十分満足できると判断されるもの | 65～79 | 4 |
| おおむね満足できると判断されるもの | 50～64 | 3 |
| 努力を要すると判断されるもの | 35～49 | 2 |
| 努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの | 0～34 | 1 |

5 履修上の注意

- (1) 教科書を活用し、予習・復習をおこなうこと。
- (2) 問題演習については、間違えたところを復習して確実に解けるようにしておくこと。
- (3) 授業の際には、教科書・問題集・ファイル・計算用具（電卓）の準備を確認しておくこと。
- (4) 不明な点は積極的に質問して、『原価計算』に対する理解を深めるようにすること。

| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 |
|--------------|---|----|--|---|--|
| 1 | 4 | 6 | 第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 1 工業簿記と原価計算 2 原価の意味 3 原価要素の分類 4 原価計算の目的 5 原価計算の手続 6 原価計算期間 7 原価計算 | 原価の意味とその要素の分類及び原価計算の目的、手続、種類などについて理解させる | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) |
| | 5 | 8 | 第2章 製造業における簿記の特色としくみ 1 製造業と簿記 2 製造業における特有な勘定 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 1 材料費の分類 2 材料の購入と記帳 3 材料の保管 4 材料の出庫と記帳 5 材料消費高の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 1 労務費の分類 2 賃金支払高の計算と記帳 3 賃金消費高の計算と記帳 4 賃金以外の労務費の計算と記帳 | 製造業における経営活動と原価計算との関係及び簿記の特色について理解させる。 材料費の分類、材料の仕入、保管、払出、消費における計算と記帳法及び予定価格を用いた材料消費高の計算方法を習得させる。 労務費の分類、賃金の支払、消費における計算と記帳法及び予定賃率を用いた賃金消費高の計算方法を習得させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) 定期考査 |
| | 6 | 8 | 第3章 経費の計算と記帳 1 経費の分類 2 経費消費高の計算 3 経費消費高の記帳 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算 1 個別原価計算と原価計算表 2 原価計算表の記入 3 原価計算表と製造勘定 4 製造間接費の配賦 5 製造間接費の予定配賦 6 製造間接費の配賦分析 7 仕損品 8 作業くずの処理 | 経費の分類及び消費高の計算と記帳法を習得させる。 原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定との関係、製造間接費の配賦、仕損と作業くずの処理方法を習得させる。また公式法変動予算を採用した場合の予算差異と操業度差異を取り上げ、製造間接費差異の原因別分析について理解させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) 定期考査 |
| | 7 | 6 | 第2章 原価の部門別計算 1 部門別計算の意味 2 原価部門の設定 3 部門別計算の手続き 第3章 総合原価計算 1 総合原価計算 2 総合原価計算の種類 | 部門別計算の必要性及び原価部門の設定、部門個別費と部門共通費の区分について理解させる。 総合原価計算の特色について、個別原価計算と比較して理解させるとともに、月末仕掛品原価の計算方法を習得させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) |
| 1学期の 評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | |

| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 |
|----------|----|----|---|--|--|
| 2 | 9 | 8 | 3 単純総合原価計算 4 等級別総合原価計算 5 組別総合原価計算 6 工程別総合原価計算 7 総合原価計算における減損及び仕損 8 副産物の評価 第IV編 製品の完成・販売と決算 第1章 製品の完成と販売 1 完成品の受け入れ 2 製品の販売 3 販売費および一般管理費 | 単純総合原価計算を中心として、等級別総合原価計算、組別総合原価計算、工程別総合原価計算について、それぞれの考え方と計算方法及び記帳方法を習得させる。 製品の完成と販売に関する記帳法を習得させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) |
| | 10 | 8 | 第2章 本社・工場会計 1 工場会計の独立(工場元帳制) 2 取引の記帳方法 3 会計期末における原価差異の処理 4 財務諸表の作成 | 工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳方法及び製造業における決算の特徴と手続きについて理解させるとともに、製造原価報告書の作成方法を習得させる。また製造業と商品売買業の財務諸表の違いについて理解させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) 定期考査 |
| | 11 | 8 | 第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 1 原価管理と標準原価計算の意味と目的 2 標準原価計算の手続き 3 原価標準の設定 4 標準原価の計算 5 実際原価の計算 | 原価管理の基本的な意味、標準原価計算の目的及び標準原価計算の一連の手続きについて理解させる。標準原価計算の記帳法については、パーシャルプランによる記帳法を扱う。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) 定期考査 |
| | 12 | 6 | 第2章 原価差異の原因別分析 1 原価差異の計算と分析 2 標準原価計算の記帳方法 | 直接材料費差異、直接労務費差異及び能率差異による製造間接費差異の分析について理解させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) |
| 2学期の評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | |

| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 |
|----------|---|----|--|--|--|
| 3 | 1 | 8 | 第3章 損益計算書の作成 1 標準原価計算における原価差異の会計処理 2 損益計算書における標準原価差異の表示 | 標準原価計算による損益計算書の基礎的な作成方法を習得させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) 卒業考査 検定試験 |
| | 2 | 4 | 第VI編 原価情報の活用 第1章 利益計画と直接原価計算 1 利益計画と直接原価計算の意味 2 直接原価計算の手続き 3 損益分岐分析(CVP分析) | 直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画を取り扱い、直接原価計算の有用性について理解させる。 | 学習態度 問題集への取り組み 提出物(ワークシート) |
| 3学期の評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | |
| 学年の評価方法 | | | 各学期の100点法での平均点をもとに総合的に評価する(5段階評価) | | |

令和5年度 シラバス

| | | | | | |
|-----|-----------------|-----|-------|-----|----------|
| 教科名 | 商業 | 科目名 | 電子商取引 | 学年 | 3年（選択科目） |
| 教科書 | 「電子商取引」（東京法令出版） | | | 単位数 | 2単位 |

1 科目「電子商取引」について

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | ①高度情報化社会における企業の役割を理解させる。 ②情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得させる。 ③利用者の立場に立ったシステムを構築するため、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を育てる。 |
| 使用教科書 | 電子商取引（東京法令出版） |

2 科目全体の評価の観点の趣旨

| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|---|---|---|---|
| ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、商取引に情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。 | 電子商取引システムを構築するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、顧客の立場に立ったデザインに加工したりする工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。 知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。 | 図形や静止画、動画、音声などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用して電子商取引システムを作成できる。 | ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、企画、立案、政策、公開の手法を身に付けている。 |
| 具体例 問題演習を通して理解を深めようとしているかどうか、など | 具体例 電子商取引のシステムについて主体的に考え、適切に加工し情報発信できるかどうか、など | 具体例 適切なソフトウェアを選択し活用し、ウェブページを作成できるか、など | 具体例 ビジネスにおける電子商取引の意義とウェブページの活用方法を理解しているか、など |

3 観点別学習状況の評価

| 評価 | 内 容 | 判定基準 |
|----|-------------------|---------|
| A | 十分に理解できると判断されるもの | 80%以上 |
| B | おおむね満足できると判断されるもの | 50%～79% |
| C | 努力を要すると判断されるもの | 50%未満 |

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスに記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

| 評価内容 | 100点法 | 5段階評価 |
|-------------------------------|--------|-------|
| 十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの | 80～100 | 5 |
| 十分満足できると判断されるもの | 65～79 | 4 |
| おおむね満足できると判断されるもの | 50～64 | 3 |
| 努力を要すると判断されるもの | 35～49 | 2 |
| 努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの | 0～34 | 1 |

| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 | 補助教材 |
|-------------|----|----|---|---|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 | 4 | 6 | 第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1節 ビジネスの変化 2節 情報通信ネットワークの活用と課題 | ・情報通信技術の発展に伴うビジネスの変化と企業の役割を理解させる。 | ワークシート | 自作プリント |
| | 5 | 8 | 第2章 コンテンツの制作 1節 ファイルの形式 2節 図形 | ・図形・静止画・動画などのファイル形式を理解させ、図形情報の効果的な活用方法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 | 自作プリント Word |
| | 6 | 8 | 3節 静止画 | ・静止画データの取得方法や活用するための技法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 期末考査 | 自作プリント iMovie |
| | 7 | 6 | 4節 動画 5節 音声 | ・動画データ、音声データの取得方法や活用するための技法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 | 自作プリント iMovie |
| 評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | | |
| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 | 補助教材 |
| 2 | 9 | 8 | 6節 情報の統合 | ・情報を統合する意義と役割を理解させ、統合するための技法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 発表内容・態度 | 自作プリント iMovie |
| | 10 | 8 | 第3章 ウェブデザインと広告・広報 1節 ウェブページ制作までの手順 2節 ウェブデザイン設計 3節 ウェブページ制作の基礎 | ・ウェブページを作成するための手順を理解し、ウェブページのデザインの設計と作成するための技法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 中間考査 | 自作プリント PowerPoint Sway |
| | 11 | 8 | 4節 ウェブページ制作の応用 | ・ウェブページを作成するための手順を理解し、ウェブページのデザインの設計と作成するための技法を習得させる。 | ワークシート 課題提出 発表内容・態度 期末考査 | 自作プリント PowerPoint Sway |
| | 12 | 6 | 第4章 ウェブページの公開 1節 ネットワーク機器の種類と機能 2節 公開の方法 | ・通信ネットワークの仕組みを理解させ、ウェブページを公開、管理、運営するために必要な知識を習得させる。 | ワークシート | 自作プリント |
| 評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | | |
| 学期 | 月 | 時間 | 学習内容 | 学習目標 | 評価方法・指導 | 補助教材 |
| 3 | 1 | 8 | 第5章 電子商取引とビジネス 1節 電子商取引のしくみ 2節 企業間取引と企業対消費者間取引 | ・電子商取引の役割について理解させ、店舗の開設、運営に必要な知識を習得させる。 | ワークシート 学年末考査 | 自作プリント |
| | 2 | 4 | 3節 電子決済のしくみと方法 4節 電子商取引システムの作成 | ・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解させ、技能を習得させる。 | ワークシート | 自作プリント |
| 評価方法 | | | 観点別評価及び定期考査等から総合的に評価する(100点法) | | | |
| 学年の 評定方法 | | | 各学期の100点法での平均点をもとに総合的に評価する(5段階評価) | | | |